

1982年4月号

1982年4月5日発行（毎月1回5日発行）

No.69

# あふあふ

発行人／ 発行所／あふあふ出版部  
定価／100円 振替口座／ あふあふの会 電話

逐次刊行物

昭 57.4.15

国立婦人教育会館  
情報図書室

詩  
イラスト 橋 たらだ

地球をひとまたぎ  
生きることの光と影をふみしめながら  
生身で生きることが喜びとなる世界へ  
この熱い血潮の源流（みなもと）をたどって

こどもと歩く時 女は  
おのれの心の中に  
黒々と広がる砂漠の前に立ちつくす  
どうして殺すことでしか 生きられなかったか  
蟻地獄の街の空気を切りさけ

こどもを産んだ時 女は  
遠い遠い声を聞く  
こどもを産み育ててそして働き 死んでいった母たち  
どっかりと座り胸はだけ 子どもを抱いていた祖母たち  
名前もなく言葉も持たない 女たちの無言の息づかい

こどもを産んだ時 女は  
初めて人を恋した少女のように  
まっかな夕焼けに向って はだしで走る  
初めて人を恋した少女のように  
まっかな夕焼けに向って はだしで走る





## あんふあんの目

若い農婦のように  
生きられないかい



三月で二才になったばかりの子供と三才と五才の三人の子供、二ヶ所の公立保育園、九時から五時の仕事は写植と版下。一年前に情報紙に「教えます」が載っていてそこで習った。給料は手取十一万位。今の所は勤めて八ヶ月、一年たてばこれに技術手当がつく予定。残業はしていない。四人の小さな所、私の他三人は男。全員三十才位。私が入ってからお茶くみ等は交代でやることにした。一ヶ月に一回会議も、もつことにした。最初は、私のことを、うさんくさそうに見ていたヤツもいるけど、今は「がんばってんな」という感じ。土曜は月二回休み。あとの二回は五時まで。朝は三人の子供を父親が送っていく。夕方は私。月曜の朝のシート交換等も、もちろん彼がやる。連絡帳も半分位は彼が書く。職場までは、バスだと三〇分、バイクだと十五分。おむつも含めて、ほとんど毎日洗濯機三杯の洗濯物がある。子供の病気の時は、彼と交代で休むか、あんふあんの誰かか、保育園で同じ時に休んでいる人と交代でみたりする。三年前に京都から東京へ引越して来て、なぜか今では、知人友人に廻まれている感じ。

（あんふあんの目のおかげ？）実家は遠いし、埼玉の夫の実家に頼りたくはないと思っている。保育園の父母会の役員と、あんふあんのスタッフ、大田保育園を作る会などにかかわっている。もともと、いろいろな人に出会いたいと思っている。人間に対する好奇心が強いのだと思う。仕事をしたい人から「たいへんでしょう」とよく言われるけど「家にいる方がもったいない」と言ってしまう。本当にそう思う。朝起きるのがつらい時もあるけど、今の給料に児童扶養手当が加われば彼にながもって食べていけるし、子供の環境を激変させるようなこともなくすむし、その気になれば離婚できるし、彼に保育園や子供のことにかわかるところを否おうなくつきつけられることを思えば精神的にはまったく楽。「たいへんでしょう」と言われても、それじゃ昔の洗濯機や冷蔵庫のなかった時代の女達はどうしていたのだろうかと思う。行商や農業をしながら子供を産みついていった女達は、どうしていらしたのだろうか。そんなに色々と毎日毛色の変った献立を用意しなければいけないのか。洋服を取っかえひっかえ着なくてはいけぬのか。散らかってはいけぬのか。人間はうんちもおしっこもする生物。子供を持つと、そのことがよくわかる。

最近思うのは、人間は男と女に別れているのではなく、産む側（育てる側）と産まない側（育てない側）に別れているのではないかと。産まない側は、産まない側は男も女も身軽にひた走り、振り回し、権力を手に入れて来たのだと思う。産まない側がマスコミなりすべてを支配し、産む側は支配され続けてきたのかと思う。発言する場もなく。今、私達は産む側からの声を伝えて行きたいと思っている。仕事をしたいこと、今までと違った様々な男達にも出会う。私はいつも、子供をかかえている女性の状況などを一人でも多くの男に伝えたいと思っているので（それでなければあんふあんとやってきた意味がないではないか）色々話すが、先日、理解のある夫と自負する男が、何かの拍子で「だって僕は仕事してるんだぜ、あいつは家で子供と昼寝してるんだぜ」と言うのを聞いて（彼の奥さんは妊娠中、上の子は一才十ヶ月でとても楽だとは思えない）クライイ気持になりました。それともう一つは、「女の中にはしゃかりきに働いて公害を出すより、適度に働いてあとは住民運動とか地域の問題をいっしょうけんめいやりたいたいと思っている人もいるのよ」と言う居並ぶ男達から「その人なんぞそんなことできるの」と言われ黙ってしまいました。

（井上）

## 反戦あんふあんと



豊島区

反戦、軍縮の声が高まる中、私も二十名余りの署名を集める身となりました。説得、アピール側になってみて（以前から少しは感じていたのですが）自分の基盤のなさ、知識不足に、いま一歩前へ強く踏み出せないでいる状態です。

私個人に関して言えば、いま身を置いている主婦という立場で同じような立場にいるまわりの人に、反戦とか政治に関しての問題を気軽にスムーズに口にできない状態です。どうしてなんだろう、何故なんだろうと考えてみると、私自身が今までそういう立場、仲間と接する経験が少なかつたということが第一、それが緒を引いて私自身がまだそれらをコチコチになって受けとめている点があるようです。そして受けとめるであろう相手もまた固苦しく受けとめようとするふんいきがあるように思えます。（もしかしたらこれは

私の固定観念かもしれませんが）これらはたぶん昔からの女は政治に口出しするな、あえてする者はなまじき、かわいげのない女といった社会の観念がいまだ濃く裏でブレーキをかけているのではないかと思います。（そう考えること自体もう古いかなあ）私自身にも見えないながらもそれはあるのだろうと思います。

以上、よろしく

連絡先



灯はぼんやり灯りゃいい

しんしん冷えこむ 雨の夜  
灯のつかない真暗な我が家に  
たどりついた

寝室をのぞくとあの人は  
よく寝ている

病人はそっと寝かせておこう  
米をとぎ、魚を煮る、

あの人の好きなカレーだ  
米の炊ける生暖かい匂いがする

今日は珍しく早く帰れた  
すぐ食べられるようにして

暖かい日を見計って  
あの人の体を拭いてあげなければ

寝たきりは、辛いから  
そうそう行く前に寝室の

灯をつけておこう  
あたしが帰ったとわかるように

スタンドのスイッチは  
明暗二段の切り替えになっている

暗の方にしておこう  
布団の中のあの人は

白骨と化して  
もう二度と

目覚める事はないのだから  
灯はぼんやり灯りゃいい

入間市

## 福岡女たちの映画会

八十七歳の青春（市川房枝生涯を語る）

### 託児係からの報告

こども。そしてこどものいる社会。この当然すぎる事象をどれだけ社会的にとらえられるだろう。一部の母親の私的便宜上に始まった託児。この映画会で、こどもに身も心も奪われたような人にこそとやはりまた母親に向けて設けた託児。そして、上映実行委のうち幼児をかかえた者ばかりの六人が託児係として関わった過程にも託児は終始、こどもと大人、女と男の問題を見え隠れさせた。

託児係のほとんどは、自分のこどもを持つてみて初めて社会通念の手ごわさに鋭敏になったというか、身近なところから、ひとつずつ点検を重ね、あらゆるものに自然の流れをとりもどしたいとグループで考えあっている。

#### 途中略

ちょうど環境による遊びの退化などが問題視され『こどもと遊び』をテーマに読書会を行ってみたいので、自分達のこどもの状況も含め、託児空間の工夫を試みる良い機会として積極的な一面でその係を引き受けた。だが、家庭やこどもを持つゆえの束縛をいつもマイナス条件にかまえてしまう習性から、私たちのベースでしか動けない点に甘んじて、実際かなり分業的な託児屋に徹してしまっただけである。私たちは単に時間をやりくりして会に加わったにすぎず、足元の不確かさは少しも変っていないこと、つまり家庭での経済の担い手を自負する夫たちの仕事への

優先度は主婦の立場から最もくずし難く、労働の対価がそのまま子育ての手になりうるに、それが必要かどうかの次元は通りこして定着していったと思う。そして、今度の託児を子育て全般にどうつなげるのかとか、実行委内でのこどもの存在をどう位置付けるのかといった検討が不十分だった。このことはこどものある、なしによるスタッフ間の実働の差に加え、託児をどこまでもその場しのぎの手段とするか、それとも親の管理を離れた所でのこども同志の、または託児者との一つの出会いに意義を求めるかの解釈の相違による二重のギャップを生じさせてしまった。

#### 途中略

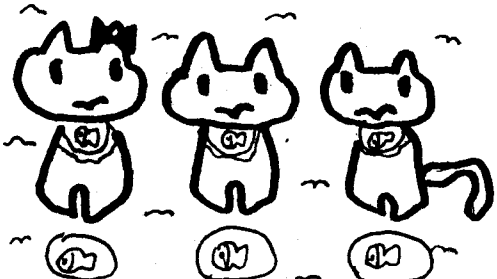
私たちが「さい帯」一本のつながりで、こどももに振り分けられる時、この世は何と効率良く回転することか。この先、人間らしい営みが続き得るのかと危惧しないわけにはいかない。一方だけに押しつけて子育ては創造的だの、大人（たぶん女）を鍛えてくれる作業だのと決めつけるものではないと思う。私たちはみんなかつてはこどもだった。こどもは私たちと同じ大気を吸い、同じ地面を踏み。これからは多分同じように生まれてくる。こうしてあるがままをことん互いに付き合わねばならないもののようなのだ。子育ては親だけの手におえるものではなく、社会全体で関わるものだ。子育ての分

業と封じ込めは、子供を母親のベットのしるしにしよう。教育大のえらい先生の講義にこどもの自立をばば母親の愛情過多というのがあったが、そうならざるを得ない厳然たる背景が無視されている。青少年の非行の原因にさかのぼるとき、足りなかったものはこれだとかばかりに引き出されるのが父兄の役割、父兄の復活だ。父兄の鑑にもぐりこまないで、まずは真正面からこどもにかかわってみたい。託児は男性の活動の場にあってもいいのではないだろうか。いろいろな機会にいろいろな形の託児が有り、こどもがついてくるも、こどもを置いて出るも親子双方に選択の可能な状況になればと思う。

この映画会でも会合の日時を何度かに一度は子持ちに合わせるのか、託児の打合せや作業にはそれ以外の人員がこどもをみるとかして、もっと全体的にこどもを含めた動きがとれれば、映画と託児がこれほど隔ってしまうこともなかったらいい。

なお、私たちは当面の八女こども単位でも、やはり歩みを止めるわけにはいかないことを痛感している。そうでなければ市川さんの平等、参政、平和の願いも、子育てや主婦、主婦性とかの前に空回りしてしまわないとも限らないからである。また、子育ても託児も共にこの世に生きることに結びつかず、単なる必要悪でしかなくなってしまう。私たちは託児係としての監視役を返上し、こどもたちとの八女を分かちあい、こどもの生きる証しでもある八女を分かちあい、こどもたちの残念に思う。

## 出産アンケート 中間報告 その6



ラマーズ法出産という、自然分娩の代名詞のように考える人が多いのではないかと思う。実際、今行なわれ、又本で紹介されている形はそうなのだけれど、これは日本での広がり方が、病院出産の人工的なものに対して出てきた事とか、昔ながらの助産婦が多くやっていたりもするのだからと思う。

でもアメリカでは、ラマーズ法で会陰切開をする。最も、麻酔分娩や帝王切開が多い国だから当然かもしれないが、しかし日本のラマーズ法の広がり、プーのいうことも言えるかもしれないが、助産婦や、産む女たち中心に初まり、広がっていった事が、お産を考え直す、あるいは主体的にお産を取り戻す運動としての側面を抱えることにつながり、良かったと思う。アメリカのように医者におせん立てされたラマーズ法はそれだけで終わってしまうように思う。

で、ラマーズ法って何？と聞かれると、困ってしまう。呼吸法や体操、リラクゼーション法でチームワークで主体的にお産することって言う、また諸説さまざま出てきそうだけれど、そう目くじら立てて明確に定義づけする必要はないと思う。要はあなたにとっていいお産は具体的にどうですかと、一人一人考えればいいわけで、ラマーズ法に縛られることなく、条件、気持ち、様々考えて、病院出産であろうと、何であろうと、その人の意志を通すこと、まわりがそれに協力することが大事なんだと思う。

出産アンケートの中で、一応ラマーズ法の形で産んだ人は十数人。全体の十分の一にはならないけれど、孤立無援の中で、呼吸法をやって会陰切開してくやしがった人、一人で準備出産グループに通って、助産院を探して産んだ人。また、ラマーズ法の知識はなくとも、産んだ所がたまたまそういうシステムでふつうは違うことを知ってびっくりしつつ、夫に出産、育児の協力を求めて独自の道を選んだ人。共通して言えることは、ラマーズ法という形よりも、自分の納得いくお産を求め、主体的にやってきたということ。そのせいか満足度が高く、痛みもあまり感じないで、赤ん坊に対しても違う感じがする。たいていは、夫も協力的とは言えず、ねばって立ち会いを納得させているケースが多いのだけれど一緒に暮らしている以上、育児の主体的な協力というのは絶対必要だから当然と思う。でも、核家族の中での育児は限界があるなあと私は今、感じている。私自身、ラマーズ法出

産で友達、つれあいが立ち会ったのだけれど、男の育児は、女、母とは別の面のつきあい。母親代わりにはならない。太古の昔のように母系共同体ならいいなあと思う。その意味で今のラマーズ法は今の私達に見合った形なのだろうと思う。女達が、他人の出産を自分の出産のように喜んで協力して、育児を共同化して、それを連鎖と伝えていけたらと思う。例えば今なら、近所の親しい母親達や、女達の立ち会ひもあっていいし、少し大きくなっただけの子供たちに見せたい。今度の三谷さん（先月号に書いていた）の出産も、そんな取り組みの一つだと思ふ。夫の立ち会ひ、育児の協力は、家庭の中で、女、子供中心のミニ社会を作ることでもあり、夫婦の関係をもうくり変えてゆくと思う。

今の世の中、妊娠中から、仕事、その他からはみ出されて、産む女は孤立させられたまま産み、子育てし、そのうっぶんを子供にむけたんではたまらない。この時から、もう産む女も、赤ん坊も主体性なんて否定されているわけだけれど、出産の時、その後でなく、この時から初まってるんだと思う。「産まれたものの思想はあるけれど、産むもの、産む思想は、今の世にない」と森崎和江が言っていたけれど、産みの思想というのは、女の思想、女主体の、生きものの命、自然を生きた思想だと思ふ。赤ん坊が気持ちよく、この世に生まれてこれる、自分も満足できる、そんなお産を、自分で考えてやる事からはじめよう。私も、今度は二度目、お産がもっと自分にひきつけてやれたらいいなあと、今、これを書きました。（竹村）



## 夫のこと



長い離婚願望のトンネルを通り抜け、やっと落ちついた日々の中にいる。

私達は、どちらも常識というレールから外れていて、廻りの思惑など全く気にせず、夫の部屋で新婚はスタートした。ここは親の仕事で離婚した夫の兄の住居で、離婚した夫の姉も別棟を建てて住んでいるし、職人も出入りする大家族だった。私はすでに妊娠しており、二人とも一文なしだったが、産めばどうにかなんとかなると思っていた。以外にも夫は経済的に養ってゆく自信がないから中絶してくれという。義兄の家に居て生活費もかからないのに、なんと情けない事を言うのだからかと思いがちだが、初めての子を中絶した。そのあと出血が続き、医者に通いながら、仕事を休んで、アパートに移り、二度目の妊娠をしていったが、流産してしまった。この頃から無知な自分を悔み、私だけが、とても常識的になっていった。夫は何か事が起きても優柔不断で行動力もない。その都度、私が決断し行動を促した。何度も別れようと思うのだが普段は優しく、そのたっぴりした愛情の中で居ることもなく、別れにはならなかったが、くすぶり続けていた。その後も働き続け、三度目の妊娠をした時に、夫の姉が新居を購入し一緒に住むようになった。義姉は金や自分の為なら嘘が平気で、私はこの家を何度か出ようとしたが、相変わらず、夫は将来の計画もなく呑気だった。夫に内緒でコッコッ蓄えてきた金があり、ここを出る時は、家を買う時と

自分に言い聞かせ、居直るしかなかった。近所では幼児からヴァイオリンやピアノを習わせ、他の子との成長を比較し、競争心をあおるような話にはついてゆけず、やりきれない思いがふくらんでいった。二才と三才の幼児を抱え、表面は繕えても、心はもんもんとしていた。この時、"あふふふふ"と創刊の呼びかけに共鳴し、始めて出逢った女達と共同保育をしながら、語り続けた。各人が悩みを抱えながらも、励ましあい、春の息吹のように生きてゆく情熱がみなぎってきた。だのに夫はこの男社会で身内に見守られて、その温室から出ようとしなかった。家事や育児なども手伝ってくれて優しくしたが、裏返せば、自分が無能だからではないか。夫は毎晩酒を飲み、飲めば飲む程に毒舌になる。"まともな給料も持たないくせして"と夫を罵るようになった。暴力こそ振らないが、声を荒らげ、怒鳴る。私もそれに輪をかけて、ぶちまける。夫は逆上し、今にも私に襲いかかろうとする。"明日、実家に帰ります"と言って、子供の寝ている部屋に逃げた。翌朝夫は、給料の件は交渉するよ"と必ず条件を出して、謝ってくるというような事が続いた。幼い時に母を亡くした夫は、我が子の為にも離婚を極度に恐れて、恐れれば恐れる程、私は離婚を望んだ。こんな男という自分が哀れで、世の中にもっといい男がいるはずだと信じていた。夫は子供を置いて、それも夜の外出となると、他に男ができたんじゃないかと疑う。"男の夜は自由で、その妻が、ほんの束の間夫や子供から開放されて、おしゃべりを楽しむのが、何故悪いの"と、この頃では離婚を

盾に、夫を説得する。運悪く、その日は長女が四〇度近くの熱をだしたが、出かけた。主婦が始めて催した、真夜中のパーティーであり、主婦の自由の記念すべき一歩でもあった。

義姉と同居して七年が過ぎたというのに、夫は義兄の"会社が大きくなったから、家を買ってやる"という言葉だけを信じて? (給料さえ年中遅配という現実) 自分からここを出る気がなかった。現実を見据えて対処しない生き方がもう鼻についてきて、我慢の限界だった。現金を夫の前に出し、"家をかう不足分は都合して下さい。それができなければ、子供を連れて家を出ます"これは本心だった。そして中古だが家を買った。二人の幼稚園児を私の職場に連れて、八時から五時というフルタイムの仕事に就いた。

七年前、"あふふふふ"の女達と出逢えた事で、仲間が勇気づけられ、自分の望みを着実に築き上げてこられた。夫は家事や育児も分担してやるし、夜の外出も自由だ。なのに不幸だった。家は変わっても夫はそのまま。私達には深い溝ができていた。しかし社会に出ていろいろ男と関わりあううちに、男がだんだん見えてきた。以前のように、男に幻想を抱かなくなってきた時、始めて夫の良さを知った。半年前、小二の息子が、人の感情のわからない子になっていた。私がお祭り騒ぎに夢中になっていない時、ママ/ママ/と何かを訴えていたに違いない。今、夫や息子とも心が通じ合えてきている。素直に語り合う努力を今はじめた。人生はいつでも何かを感じ始めた時がスタートなのかもしれない。私達は離婚する必要がなくなった。

(橋)

## 体のおしゃべり

### 主婦湿疹について

川崎



私も二年前にかかり、三ヶ月で治りましたので何かの参考になればとお便り致しました。いろいろな情報で中性洗剤の恐ろしさは知っていましたが、何事も徹底せず、時たま、使用してしまいました。私の皮膚はかさつきやすく、アレルギー体質でもあります。あれは二月の日曜日、一週間分の洗濯と家じゅうの雑巾がけをした日の事です。普段は手が荒れやすいので、水仕事の時には、必ずゴム手袋をしていたので、その日は午後から来客があるので、素手で水仕事をして、そのまゝ一日過ぎてしまいました。その後、クリームをつけても、カサカサ、ヒリヒリが治らず、二三日すると、その上にポツポツ何か出てきて、指紋がなくなるくらい、皮膚が薄くなつて、湯のみなど持てなくなりしました。すぐ主婦湿疹だと気がつき、医者へ飛んで行きました。医者は診るなり"これを治すには、ながい、ながい時間がかかり、患者本人の意志の力以外にはなく、絶対に、水や洗剤に触れない。まめに薬をつけ、通院してくる事"と言われました。薬は指先用と手の平用の二種類ありました。その薬をべったりつけ、両手にぐるぐる包帯を巻いて、手を水につけるのは入浴、朝の洗顔化粧の時だけです。あとは水廻りの傍にはゴム手袋を置いておき、必

ず手袋を使用しました。職場では、お茶汲など、仲間に事情を話して、なるべく変わってもらい。書類などめくる時、指先が痛いので指ゴムをいっぺいはめてしました。夜は薬を塗った上に、指の一本一本にラップをきっちり巻き、手の平に巻いた上から、医療用の木綿の手袋をはめて寝ると、手が火照って、寝つきにくいのですが、かなり効果があったと思います。一ヶ月位でかなり快方に向った時、仕事の関係で、三日間のコーヒーマシンのメンテナンスをしなければならなくなり、上司に湿疹の件を申し出たのですが、全く取り上げてもらえず、晴見の見本市会場で、毎日数回杯のコーヒーマシンの入れ替え。一日中、水にさらされっぱなしで、痛みを通りこし、火傷のように腫れ、一ヶ月の努力も水のあわ。また最初からやり直します。季節は春になり、湿度が上がり、発汗作用や皮膚の新陳代謝も良くなった事も要因となったのでしよう。五月には元の手に戻りました。医者は、こんなに早く治る人は、本当にめずらしいと言われました。

湿疹は個人の体質、治療を始めた時期の早さ等、色々な状況によって一概に治療方法の良し悪しを決められないと思います。今まで湿疹で悩む知人にこの話をしたので、完全に実行しないで、治らないと言っている人が多いようです。子供が小さいから、家事が忙しいからといって、ついつい手を水につけっぱなしという事が多いのです。

病気を直すのですから、今までと、全く同じ生活のペースをくずさないというのは、どう考えても無理だと思えます。

### 事務局へ来たハガキ

練馬区

二月号の加藤さんの"書くこと"もあふふふんて読んでペンを取ってみました。子供が四才と二才になって、そろそろ私も"何か"と思っであふふふんての会員になったのはわずか三ヶ月ぐらいい前でしょうか、人生自分の思うようにはいきません。子供が少し楽になって心の中に晴れ間ができて外に出よう出ようと思っであふふふんて待っていたのは義母の病氣、今年に入ってから入院して同居している訳ではないのですが結局病院の近くに住んでいるという事で私がみることに。家と病院の往復の生活で得たものは健康の有り難さ、毎日元気で暮らせることの幸せ、そして近所の人のやさしい心遣い、いろいろお世話になりっぱなしで感謝……! こんな生活が五月頃まで続きそうです。自分の身体も心配なので出来るだけ頑張ろうと思っであふふふんて健康第一ですね。





あんふあんてから  
あんふあんてへ



主婦って何

大田区

一才と三才の子供の手を引き、又は友人に預けて、二つのサークルと二つの講座に通うなんて一年前には考えられなかったことでした。行動半径はスーパーと公園と家の三角形の内側。雨でも降れば狭い二DKで反抗する子供を相手に一日中大人とは口をきくこともなく、帰りの遅い夫とも会話らしい会話もなく過ぎていく毎日。他の主婦は何を考えた、どうやって暮らしているのだろうか。もし自分が平均的主婦なら、日本の主婦って何て我慢強いのだろうか。ため息の連続でした。今考えると育児ノイローゼ一歩いや半歩手前の自分が見えてゾッとします。それがふとしたことからあんふあんにてを知り、行動する主婦を知り、いつの間にか私の行動半径も広がってしまいました。確かに一年前の自分とは違う。しかしそれは私の心の中での変化での話で、専業主婦という、社会的地位(?)は少しも変わっていないじゃないか。そんな疑問がむくむくと頭をもたげてきました。仕事を持っている人だって家事をしている。それなのに職業欄に勤務先の他に主婦なんて書かないに違いない。では職業欄に主婦って書く人は一体何をやってい

るのだろうか。結局雑用のかたまりじゃないかしら。家事労働者なんて声が聞こえそうだけど、家事ってそんなに価値あるものなのだろうか。もし本当に内容のあるものなら男性側からも志願する人がいていいのじゃないかしら。人のいやがる仕事を日本ではエタ、非人、米国では黒人がしてきたように、やっぱりつまらない仕事を女性に押し付けてきたのだ。新聞を見れば政治面、経済面に女性の名前が載ることはめったにありません。三面記事に載る時も〇〇の妻〇〇子、〇〇の長女〇〇子で独立した名前では呼んでももらえません。そう最近の私は被害者意識まる出しなのです。十代の頃感じたのと全く同じで、それは頭の中だけ。実際に社会に飛び込んで厳しい現実と直面している訳でもなんでもありません。首までとっぷりぬるま湯に浸って悩んでいるのです。こんな悩みは聞く耳持たぬぜいたくな悩みなのだろうか。子供の手が離れた時誰か一度は感じる虚しさみたいなものだろうと思います。この気持ちを心の隅に寝かせておいたら、いつか発酵して成熟し、大爆発を起こすのを楽しみにしています。では今何をしたらよいのでしょうか。子供を保育園に預けてパートにでも出ますか。ボランティア活動にでも参加しますか。するとこいういう声が聞こえます。パートや内職は景気の調節弁だ、ボランティアは福祉政策の民間肩替りだ、今の私にはフルタイムで働くしか解決策がないのではないかしら。明日からは言わず二年後三年後でもいい。歯車の一つと言われてもいい。社会の中で息付いていたい。ぬるま湯から飛び出さなくては!



教科書を重視しないで

府中市

義務教育を受ける子供たちにとって何より新しい教科書が届く季節になりました。新一年生を持つお母さんなど、わが子も大きくなったものだ感慨もひとしおかも。でもこの教科書、そんなに大切なものなのでしょうか。教師にとっても教科書とは、本来子供たちに教えるべき教育内容のひとつの指針にすぎなかったはず。ところが、いつのまにか教科書そのものを教えることが教師の仕事になって

R君、T君、Cちゃん

杉並区

おかあさんは、野菜作りを始めようと思っ

某所に住んでいた頃、知り合いの農場で、獲れたばかりのトマトを段ボール一箱い

それから、何より昨年、マンション住い

毎に春めいて柔くなった陽差しの下、土いじ

りに狂気していた三才のT君と、種を蒔くのも水やりも、一人前にこなした五才のR君。...

おかあさんより



原稿はいつでも募集中! 詩、イラスト、なんでもかんでもがんばって書いて、がんばって送って下さい。あんふあんにてはあなたが作る情報紙です。...

しまいました。子供たちをふるいにかけるためだけの今の受験体制や、教師の多忙化および力量の低下、政府の教育統制、教科書会社の姿勢など、原因は色々あると思いますが、...

だいたい今の教科書は、検定制度と採択制度の二つのふるいにかけるから、公害問題など直接企業と結びつく内容は削られるか表現をゆるやかにするから「女は家庭に」...



## 映画コーナー

「人間をかえせ」10フィート運動より  
一年前ぐらいから、新聞・雑誌で10フィート運動という記事を見かけたことありませんか。これは「子どもたちに世界に、被爆の記録を贈る会」というところが提唱したもので、原子爆弾によるヒロシマ・ナガサキの惨劇の跡を撮影した映画フィルムが、アメリカに保存されて眠ったままであるのを、みんなで入手しようという運動です。私は広島産の産で広島原爆という感じで何かいつも心にひっかかっていました。先日、渋谷の西武バルコで、買い戻したフィルムの編集されたのを上映するというのを新聞で読み、行ってきました。ファッション街に原爆映画というキャッチフレーズで行なわれ始める前は、バラバラぐらいいで、隣の女子高生の二人組も、「少ないねー」と心配していたのに、始まってからゾロゾロと入ってきたなんとか席は埋まったのです。若い人が多いようでしたが、平日というのに中年の男の人が多かったのも印象的で、十二時十分開映で昼休み利用の人もいたのかもしれません。

映画の方はというと短かいので何となく、もの足りない面もあったのですが、やはりシブクでした。被爆した当時のフィルムにでてる人を見つけたし、インタビュースしてただけでクロイドの為に差別されたり、結婚できなかつたりと心身ともに今でも被害は続いているのです。以前、丸木俊さんが「残酷だか

らということ、原爆の図が教科書から削除されるとかいられているが、現状はこんなもんではないです。第一、絵からは勾当ないが本当はひどい惨状のうえにひどい勾当がたがよっててとても絵にはいい尽くせないものです」と言っていたのを聞いたことがありません。私もなぜか映画を見ながらこんなもんじゃない、こんなもんじゃなくと目をうるませながら見ていたのです。でもみんなに見てもらいたくないし、子どもにも絶対見せたいと思っていました。今回見たフィルムは学校教育用に作られた十五分のもので「人間をかえせ」というタイトルのものです。あと春、夏に完成するのと合わせて合計三本のフィルムがでるそうです。今までの運動でフィルムは入手できたのだけど今度は外国語版に編集するのに資金が必要とのことでした。私もさっそく10フィートぶんの三千円出して協力してきまして、それとひきかえに、原爆投下フィルムで作られた書籍用しおりと映画の無料観賞券が送られてきました。

今、世界には、世界を数回減らすことができるほどの核があるといわれています。いつそれが使用されなくとも限りません。こんな時代だからこそ是非みんなにこの映画を観てもらいたいと思います。生命をかけて産んだ子を守るためにも、戦争・原爆の悲惨さを忘れないために……

10フィート映画運動で、映画会が開かれなところでも、一市町村・職場に三十人以上の会員がいる場合、フィルムを一回無料で貸してもらえそうです。あんふふなんてでも上映したいですね。

子どもたちに世界に、被爆の記録を贈る会  
東京都港区芝一四一九平和会館内 〇三  
(四五四)九八七五・九八八二、郵便振替東  
京(二)八一八〇八番、口座名は会の名称  
一口三千円、何口でも。(砂田)

## 図書コーナー

「からだ教育」 編集解説：毛利子来  
発行：筑摩書房 定価：千六百円(!!)  
フラフと立ち寄ったホビット村の本屋でみつけた一冊の本。教育実践の記録 2 というサブタイトルに少し重たい感じを受けながらも、「管理主義的な『体育』に抗して、……という帯のコピー文に魅かれて買った。実はまだ読み終わっていないのです。しかし、最初の報告例を読んだだけで、もう、ウレシク感じて、少しずつチビリチビリと楽しむことにしたからです。吸収すること、感心することがいっぱいあって、一つでも新発見すると一日中元気になるじゃない、その元気さ・うれしさを一ぺんに手にかかえてしまふにはもったいないし、明日もあさってもこちよさが得られると思うと、仕事の疲れもふっとぶというもの。ごく一部を紹介。

「からだ」は、身体である「身体」とは異なる。「からだ」は生きていく。では、「からだ」とはなにか? 前書き風な毛利子来さんの文からして考えさせられる。

「教室にもどって、それぞれ席につく子どもたちに、「自分で座ってみて、一番楽なと

ころをみつめるんだよ」と机といすの間のとり方をさがさせた。自分のからだの中の感覚によって、ちょうどいい位置をみつけたさせるのが私のねらいだった。」「一年生のひらがな学習がはじまった。えんぴつをにぎって最初にたて線を下から上に一本、上から下に一本ひかせる。」「どちらが書きやすいかな」横線も同じように左から右へ、次に右から左にひかせてみる。ノットいっばいに、長く、思いきり書いてごらんと言ふ。線は、からだに楽に動きやすいようにひくのがよいことがこの学習でわかればよい。……いよいよ、ひらがなに移っても、頭から書き順は教えない。「からだに楽に動く順が書き順だよ」この宮原清さんのように私も教わりたいな。ナ。野口体操を使ったイメージ体操をやっているつるまさちこさんは、『石』(コトコチに固い)、『わたし』(外側は同じ形で、力をほわっと抜いたやわらかさ)、『木』(気もちが木になつたつもりで首は上に、指先や足は下へのぼす)と三つのきをつけを使い分けます。「おしりがもしか、足だとしたら、その足で歩けるか?」とか、「人間は猫よりやわらかいと思う?」とか、「ここに生卵が一つある。この卵をこの机の上に立てる。さて、立つてしょうか?」等々の難問も提起してきます。

サアテ、生卵は立つとあなたは思いますか? それを知りたい人、野口体操とか整体とかに興味のある人はこの本を読んでみましょう。頭の中もぐにぐにやわらかくなった私です。(古知)

## 情報コーナー

「高校家庭科男女共修用教科書」一橋出版  
えっ、えっこれ家庭科の本? ウッソー! 最初のページは見開き二ページの日本地図。その上には原子力発電所基地と環境汚染分布図をくっきり。ペラペラめくれば、ベビーホテル問題、食品公害、奇形のサルの写真に薬づけの養鶏の写真などなどまんざら。あー私もこの教科書で勉強したかったです。市販されていせんので欲しい人は井上まで。

午後六時〜十時まで

★おすすめの映画があります  
この前の映画コーナーでちょっとふれたデンマーク映画の『冬生れの子ら』が、二回だけまた上映されます。誰かが観てくれて、私といっしょに上映会やろう! と言ってくれたいのだけだナ。 (古知)

四月二十一日 午後一時と六時  
渋谷バルコパート3 スペースパート3  
★電話予約 〇三(二九五)九〇〇三  
★食と農を考える集い  
映画上映・報告・交流など 四月十日(土)二時〜八時三十分 四月十一日(日)十一時三十分〜四時三十分 参加券七百元 当日券九百元 託児室の用意あり 連絡先 昼(古知)

★女性専科の書店が京都にオープンしました  
子連れの女性も気楽に行けるそうです。地方からの注文にも応じます。午前十時〜午後六時迄。 〇七五(四四一)六九〇五 松香堂



★ミニコミ紹介「あうと」  
ギリシア在住の日本の女性が月一回発行しているミニコミ紙です。日本を始め、アメリカ・ヨーロッパにも送られていくそうです。あうと、というのには Where are you going? と聞く夫へのひと言の返事 Out (そとへ) からとったそうです。内容は、本の紹介や読者のお便り紹介 etc. そしてこの三号では、世界の国籍法と題してアメリカ・イギリス・フランス・カナダ等々の国籍法が載っていました。今まで直接に関係なく過ぎてきたのですが、国の事情によってズイ分違ってくるものですね。

「あうと」がきーには、外国で生きること、日本人であることの重さを感じさせられると同時に「女って強いんだナァー、優しいんだナァー」と励まされています。とありました。

The Japanese Out c/o  
Multi-National Women's  
Liberation Group  
Diofantou 1, Pangrati,  
Athens 501, Greece  
あうと購読申し込みは、NATIONAL  
BANK OF GREECE ATHENS  
購読料 一部 二百七十円(送料含)



## 事務局から

●グループの変更事項です。ビビの会及び新しい保育を考える会の連絡先である矢郷さんの住所が四月より変わりました。新しい住所は  
江東区の小鳥の会は脱会しました。

●毎月皆さんに届く会報の宛名書きは現在十名で分担しています。そろそろ交代したいと思えますので協力者を募ります。量は一人百名分以下。郵送です。遠距離の方でもできます。封筒代、郵送料等の実費は会費に振替させていただきます。労力は無料奉仕になります。やれそうな方、是非事務局まで連絡を！待っています。

●世田谷区の会員、さんは三月十一日、胃ガンのため死去されました。今後引き継ぎ子どもたちへ小学校三年生、四年生へはあんふぁんてに参加すると思いたすのでよろしくとのことでした。御冥福を祈ります。



## スタッフから

●春休みに入ったので、のんびりと海でも見なくなった。前から約束してあった魚釣りに子供を誘うと、スケジュール合わせで、一苦一楽。日々、成長してゆく我が子供達。(橋)

●三人の保育園児を、企画会議の日は夫に預け、編集準備会議の日は同じ保育園のお母さんに預けて、最後の印刷屋への受け渡しの日にはグループの武山さんに預けて、福岡の友達に電話をしたり、あそこがうまらない、ここがつまらない、あの原稿が届かない、あれはやっぱり書き直してもらって等々電話したりイライラしたり。誰一人としてこれ専門にやってくれるわけじゃなし、誰一人として子供がいらないわけじゃなし、よう毎月出してるなと編集担当の度にいつも思うのです。(井上)



## スケジュールメモ

4月18日(日)	5月号編集準備会議
4月25日(日)	5月号編集作業会議
5月1日(土)	6月号企画会議
5月2日(日)	出産アンケート
5月3日(月)	合宿
5月6日(木)	5月号発送

★入会申し込みは切手四百円分同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。宛名は表紙上段に記載。  
★参加費は一ヶ月四百円。なるべく六ヶ月以上まとめて郵便局で。振替口座は表紙上段に。特に未納の方は至急払い込みを！休会、退会も必ず連絡を。  
★事務局の電話受付は原則として月々金曜の二〜四時です。御協力を。